

広島大学大学院教育学研究科紀要 第二部 第六五号 二〇一六 三〇三―三二二

春日版『五部大乘経』の底本とされた宋版一切経（二） ―本文の比較による検討―

佐々木 勇

（受理日二〇一六年十月六日）

一、本稿の目的と対象資料

本稿は、本誌前号（「広島大学大学院教育学研究科紀要」第二部第64号、二〇一五年十二月）掲載の佐々木 勇「春日版『五部大乘経』の底本とされた宋版一切経（一）―刻記の比較による検討―」（以下、前稿とする）につづくものである。次号に掲載予定の続稿（三）をもって完結する。

本稿の目的は、前稿に同じく、春日版「五部大乘経」の中で宋版一切経に基づく経は、宋版一切経の内どの版本に依拠したのかを特定することである。研究対象および比較資料は、左の通りである。詳細は、前稿を御覧頂きたい。

【春日版五部大乘経】¹

①愛媛県砥部市光明寺蔵本ならびに②滋賀県北小松樹下神社蔵本。

【宋版一切経】

東禪寺版、東禪寺版補刻本、開元寺版、思溪版。

二、研究方法

一連の拙稿（一）（三）では、右の鎌倉後期刊刻春日版五部大乘経と宋版一切経諸本とを、以下の観点から比較する。

A. 刻工名・帖末刻板数・帖末釋音・捨錢刊記・総字数・帖末記文の宋版刻記を引き継ぐか否か。宋版刻記が有る場合は、どの宋版のものかを調べる。

B. 経本文を比較することで、底本を特定する。
C. 釋音本文を比較することで、底本を特定する。
D. 宋版に基づく春日版経に、春日版独自の点は無いか。有るならば、それは何かを探る。
本稿では、B. 経本文の比較結果から春日版五部大乘経の底本を特定することを試みる。

C・Dについては、続稿（三）で述べる。

鎌倉後期刊刻春日版五部大乘経の底本は、刻記による比較検討から、次のように推定された（前稿、参照）。

1 『大般涅槃経』―東禪寺版補刻本。

2 『大般涅槃経後分』 3 『大方広仏華嚴経』 4 『大方等大集経（日藏経・月藏経を含む）』 5 『摩訶般若波羅蜜経』―思溪版。

本稿では、まず、宋版の刻記から底本を推定した右諸経について、宋版の経本文と比較する。それによって、宋版が底本であることを確認する。

次に、宋版の刻記が見られなかった諸経を宋版の経本文と比較した上で、それら諸経の底本について考察を加える。

三、経本文比較による底本宋版の確認

1. 『大般涅槃経』

光明寺蔵本『大般涅槃經』卷第六（遺存する最初の巻）本文について、春日版と東禪寺版・東禪寺版補刻本・思溪版とを比較すると、次の異同が見られた。

春日版と諸本との異同を出現順に記す。挙例にあたり、参照の便のため、『大正新修大藏經』における所在を上段に記す。本文が春日版と同一の場合は、（同）とする。相当本文が当該本に無い場合は、／を置く。以下、同じ。

所在	春日版	東禪寺版	東禪寺版補刻本	思溪版
0396c16：曇無讖於姑臧譯	（同）	（同）	曇無讖奉詔譯	大般涅槃經如來性品第四之三
0396c17：如來性品第四之三	（同）	（同）	煩悩所障	煩悩所障
0397a11：煩悩所障	（同）	（同）	往反周旋	往反周旋
0397a19：往返周旋	（同）	（同）	空中左脅	空中左脅
0397b07等：空中左脇	（同）	（同）	（同）	（同）
① 0397b13：其家婢使	其家婢便	其家婢便	汝今不應	於大般涅槃
② 0397b16：彼令不應	彼今不應	彼今不應	爲依止處	爲依止處
0397b20：大般涅槃	（同）	（同）	脩學禪道	詐作健想
0397b21：爲歸依處	（同）	（同）	唱呼大喚	唱呼大喚
0397b29：修學禪道	（同）	（同）	汝當精勤	汝當精勤
0397c03：詐作健相	（同）	（同）	性甚妬慳	性甚妬慳
0397c04：唱呼大喚	（同）	（同）	皆生恐怖	皆生恐怖
0397c09：汝當精勤	（同）	（同）	不生怖畏	不生怖畏
0397c19：性甚妬慳	（同）	（同）	百千億劫	百千億劫
0397c26：皆悉恐怖	（同）	（同）	我般涅槃	我般涅槃
0398a01：乃生怖畏	（同）	（同）	是糞糶	食於糞糶
③ 0398a11：百十億劫	百十億劫	百十億劫	險難惡處	險難惡處
0398a13：我涅槃	（同）	（同）	若自書寫	若自書寫
0398a24等：食糞梁	（同）	（同）	無量衆生得	無量衆生得
0398a29等：食於稻糧	（同）	（同）	應善受持	應善受持
0398b01：險難惡處	（同）	（同）	連河沙	連河沙
0398b09：若有書寫	（同）	（同）		
0398b14：無量衆得	（同）	（同）		
0398b21：當善受持	（同）	（同）		
④ 0398c07：連恒河沙	連河沙	連河沙		

0398c08：發菩提心	（同）	（同）	所發菩提心
0398c26等：若有衆生	（同）	（同）	若有
0399a05：讚誦禮拜	（同）	（同）	讚誦禮拜
0399a14：今日	（同）	（同）	今人
0399b17：雖未受戒	（同）	（同）	雖未受具
0399b20：位階十地	（同）	（同）	位階十住
0400a20：而共食之	（同）	（同）	而服食之
0400b10：未曾見聞	（同）	（同）	未曾聞見
0400c01：護歎護法	（同）	（同）	讚歎護法
0400c27：是名奉戒	（同）	（同）	是名奉戒
0401a04：芸除穢	（同）	（同）	耘除穢
0401a26：八事應受	（同）	（同）	八事爲受
0401b01：祇桓精舍	（同）	（同）	祇桓精舍
0401b04：天中天唯	（同）	（同）	天中天獨
0401b05：若有受者	（同）	（同）	有受者
0401b06：同其僧事	（同）	（同）	同僧事
0401b08：果已而使	（同）	（同）	果而使
0401b14：肉眼然	（同）	（同）	肉眼故
0401b18：喻如彼人	（同）	（同）	猶如彼人
0401b23：以披袈裟	（同）	（同）	以披袈裟
0401c06：應當議知	（同）	（同）	應當議知
0401c10：如來密誦	（同）	（同）	如來密誦
0401c19：覺了覺了	（同）	（同）	覺了了
⑤ 0401c25：爲其現經	爲其執役	爲其執役	爲其執役
⑥ 0402a24：應衆生故	度衆生故	度衆生故	度衆生故
0402b28：貿易所須	（同）	（同）	貿易所須

右の異同表から、春日版『大般涅槃經』が、思溪版ではなく、東禪寺版に基づくことは明らかである。④は、書陵部藏補刻本のみ「恒」を補っており、春日版はその東禪寺版補刻本に等しい。①「便」は、東禪寺版補刻本では版面が欠損しており、「使」のように見える。⑥「度」も、東禪寺版補刻本で文字の一部を欠く。「應」が多出する箇所であるため、これと誤ったものであろう。

春日版と東禪寺版とが異なる②③⑤は、思溪版も東禪寺版と等しい。春日版の誤刻または改変であろう。

したがって、春日版『大般涅槃經』が依拠したのは、東禪寺版の補刻本である。これは、前稿における刻記の比較による底本推定結果と等しい。

2. 『大般涅槃經後分』

右と同様に比較結果を示すと、次の通りである。なお、東禪寺版と開元寺版の經本文はほぼ等しいため、以下では同一欄に記し、両者異なる場合のみ、を挟んで両者本文を記す。⁽³⁾

所在	春日版	東禪寺版・開元寺版	思溪版
0900a05: 唐南沙門若那跋陀羅與沙門會寧等譯	唐南海波凌國沙門若那跋陀羅共沙門會寧譯	(同)	
0900a07: 大般涅槃經僑陳如品之末	僑陳如品之末	(同)	
0900a12: 欣慶無量	忻慶無量	(同)	
0900a13: 即時鬚髮	即時髮鬚	(同)	
0900a13: 灌注心源	灌注心夙	(同)	
0900a21: 慈憫無量	慈愍無量	(同)	

以下同様に、春日版本文は、東禪寺版・開元寺版と異なり、思溪版と一致する。右に続く具体例の掲出は、省略に従う。

さらに、春日版卷下末には、尾題に続き「新經後記」「大涅槃經後序」が見られる。東禪寺版・開元寺版に「新經後記」「大涅槃經後序」は無く、思溪版には存する。その春日版卷下末の後記・後序の文章は、思溪版と全同である。

よって、春日版『大般涅槃經後分』は、思溪版に基づく。これも、前稿における刻記の比較による底本推定結果と等しい。⁽⁴⁾

3. 『大方広仏華嚴經』

春日版『大方広仏華嚴經』は、前稿で指摘したとおり、分巻法・分函法とも思溪版に一致し、東禪寺版・開元寺版とは異なる。思溪版に基づくことが明確であるため、本文比較対照結果の掲出は省略する。⁽⁵⁾

4. 『大方等大集經』

光明寺蔵春日版『大方等大集經』のうち、首尾完存する最初の帖である卷第二の經本文を、東禪寺版・思溪版と比較する。

所在	春日版	東禪寺版・開元寺版	思溪版
0009a06: 菩薩品第二之二	菩薩品第二之二	(同)	
0009b11: 爲利益	爲利益	(同)	
0009c14: 寂靜光無礙	寂靜光無暗	(同)	
0009c29: 我說無量光	佛說無量光	(同)	
0010a01: 即得此諸光	(同)・即得此諸光	(同)	
②0010a23: 二者慢	一者慢	一者慢	
③0010b20: 如是邪見	如有所見	如有所見	
④0010c29: 衆生繫縛	衆生繫屬	衆生繫屬	
⑤0011c15: 爲客煩惱	爲欲煩惱	爲欲煩惱	
⑥0011c22: 無想無緣	無想	無想	
⑦0011c24: 是名無想無緣	是名無緣	是名無緣	
⑧0013a12: 無衆生義	無衆生	無衆生	
⑧0013c05: 法雨於衆生	衆生雨於生	(同)	
0013c05: 無量果	無果	(同)	
0013c15: 所修菩提	所得菩提	(同)	
0013c21: 其悲心	甚悲心	(同)	
⑨0014b09: 佛諸弟子	諸佛弟子	諸佛弟子	
0014b05: 成佛之時	成佛佛時	(同)	

以上、春日版は、東禪寺版・開元寺版より、思溪版に近い。前稿の刻記比較結果の通り、春日版『大方等大集經』も、思溪版本文に基づく判断される。ただし、思溪版にも春日版と異なる箇所①⑨が有る。この中、①②④⑨は、春日版の誤刻であろう。

しかし、③⑤⑥⑦⑧は、春日版が他本を参照して、思溪版本文を改変したものと思われる。たとえば、聖語蔵藏神護景雲經本は、③「邪見」、⑤「爲客」、⑥「無想無緣」、⑦「無想無緣」、⑧「無衆生義」と、春日版と同一本文である。春日版は、⑥「無緣」の二字を挿入するため、前行および本行を十八字とする。⑦でも、春日版はこの行と次行とを十八字にして「無想」を補入している。

これらのことから、春日版は、思溪版を単に覆刻したものではなく、伝統

的な日本古写経系の本文を取り込んでいることが知られる。^⑥

5. 『摩訶般若波羅蜜經』

『摩訶般若波羅蜜經』は、東禪寺版・開元寺版と思溪版とは、調卷法や品名に異同が存する。

全三十巻のうち、諸本で品名の異同が存する巻の各巻巻頭品名を示す。

巻	春日版	東禪寺版・開元寺版	思溪版
卷第六	廣乘品第十九	發趣品第二十	(同)
卷第七	勝出品第二十二	會宗品第二十四	(同)
卷第十五	經耳聞持品第四十五	選耳聞持品第四十五	(同)
卷第二十二	屬累品第六十六	囑累品第六十六	(同)
卷第二十四	道樹品第七十一	種樹品第七十一	(同)

右のとおり、春日版の品名は、思溪版と総て一致する。

経本文も、春日版は思溪版と基本的に一致する。^⑦

よって、前稿の刻記比較結果の通り、春日版『摩訶般若波羅蜜經』も、思溪版本文に基づく判断される。

なお、この『摩訶般若波羅蜜經』でも、春日版には、日本伝存古写経系の本文を参照して、字句を修正している箇所が見られる。^⑧

以上、右の五経について経本文を比較した結果、刻記による前稿の底本推定と同一結果が得られた。

それに加えて、春日版には、宋版本文に基づく製版後、日本古写経系本文による改訂が加えられていることも知られた。

四、経本文比較による底本の推定

以下、春日版中に宋版の刻記を見出せない諸経の底本推定のため、春日版と宋版との経本文比較を行なう。

6. 『梵網經』

春日版『梵網經』には、『大般涅槃經』以下、右諸経に見られた宋版刻工名等の刻記を見出せない。ただ、春日版巻下帖末に、思溪版と全同の釋音が

存する（前稿参照）。そのため、前稿では、『梵網經』の底本推定を保留した。次に、『梵網經』巻上経本文について、右の諸経と同様の対照をおこなう。

所在	春日版	東禪寺版・開元寺版	思溪版
0997a28：手執梵文	0997a28：手執梵文	佛說梵網經卷上	佛說梵網經卷上
0997a29：一百十二卷	0997a29：一百十二卷	菩薩心地品之上	菩薩心地品之上
0997b09：梵網經	0997b09：梵網經	法品	(同)
0997b09：盧舍那佛說菩薩心地品	0997b15：法門品	一切禮敬	(同)
0997b27：一時禮敬	0997b27：一時禮敬	十長養	(同)
0997c23：十長養心	0997c23：十長養心	踰無生山	(同)
0998b04：登無生山	0998b04：登無生山	寂然	(同)
0998c11：不無寂然	0998c11：不無寂然	(同)	云假法性
0998c12：玄假法性	0998c20：不見緣	(同)・不生緣	(同)
0998c20：不見緣	0999a06：於一切衆生	救一切衆生	(同)
0999a06：於一切衆生	0999a17：入佛位中	入佛位中	(同)
0999a17：入佛位中	0999a28：亦內亦外	六內六外	(同)
0999a28：亦內亦外	0999c19：假名諸法	名假諸法	(同)
0999c19：假名諸法	①0999c27：若佛子直心者	若佛子直心者	若佛子直心者
①0999c27：若佛子直心者	1000a06：不位退	不住退	(同)
1000a06：不位退	1000b16：反照見	(同)・及照見	(同)
1000b16：反照見	1000b18：以心智知	以智知	以智知
1000b18：以心智知	1000b20：以一切智見	以一智見	(同)
1000b20：以一切智見	1000c02等：三惡道刀仗	(同)・三惡道刀仗	(同)
1000c02等：三惡道刀仗	1000c15：受煩毒時	受煩毒	(同)
1000c15：受煩毒時	1000c27：四大法水	四大湖水	四大湖水
1001a29：所謂諸佛	1001a29：所謂諸佛	所謂說佛	所謂說佛
1001b06：一音說法	1001b06：一音說法	一音說	(同)
1001b15：空華觀智	1001b15：空華觀智	華觀智	(同)
1001b29：爲妙樂國土	1001b29：爲妙樂國土	爲妙樂土	爲妙樂土
1001c10：天眼明智	1001c10：天眼明智	以天眼明智	以天眼明智
②1002a08：六品滿足	②1002a08：六品滿足	六品足	六品具足

1002a14: 自我弟子	自我弟子	自我弟子
1002a15: 無諸煩惱	無諸煩惱	(同)
1002a15: 解脫足	六通足	六通足
1002a21: 見現在十方	見現 十方	(同)
1002a22: 以神通智	以神通智	以神通智
1002b03: 大明定門 (高麗版も同じ)	大明空門	大明空門
1002b08: 下地所 (高麗版も同じ)	下地各所	下地各所
1002b12: 導師	大導師	大導師
1002b13: 法身	(同)	法身具足
1002b16: 平等門 此中	平等門 中	平等門 中
1002b27: 十方十世界	十方三千世界	十方三千世界
1002b28: 中百億	百億	百億
1002c02: 光明相好莊嚴	光明相相莊嚴	(同)
1002c22: 是名正遍知	是 正遍知	是 正遍知
1002c24: 法佛去時	去佛去時	去佛去時
1002c25: 是名善逝	是名善逝	是名善逝
1002c27: 是人一切	人一切	(同)
1002c28: 無上士	世間解脫	世間解脫
1002c29: 故名爲丈夫	名爲丈夫	名爲丈夫
1003a05: 受記歡喜	授記歡喜	授記歡喜
1003a11: 可盡其源	可盡其源	可盡其源
1003a13: 梵網經菩薩心地品卷上	梵網經 卷上	梵網經 卷上

以上、『梵網經』卷上の春日版は、宋版に依ったとは考え難い異同を示す。
たとえば、①では、春日版は、この一行を十八字として「心」を補入している。また、②では、春日版・思溪版ともに、当行に一字補入するものの、補入の文字が異なる。

卷下も、左のいづくである。

所在 春日版	東禪寺版・開元寺版	思溪版
1003b07: 梵網經	佛說梵網經卷下	佛說梵網經卷下
1003b07: 盧舍那佛說菩薩心地戒品	菩薩心地品之上	菩薩心地品之上
1003b14: 汝諸佛	汝諸佛	汝諸佛
1003b18: 及一切衆生	一切衆生	一切衆生

①1003b22: 光光皆化	光皆化	(同)
1003b27: 十世界海	十世界法門海	十世界法門海
②1003b28: 復從座起	復	(同)
1003c12: 光王座	光 座	(同)
1003c17: 金剛華光王座	金剛 座	(同)
1003c22: 一戒光明	一切戒光明	(同)
1003c28: 是一切衆生	一切衆生	(同)

以下、省略する。

春日版『梵網經』卷上・下は、東禪寺版・開元寺版よりは、思溪版に近い。しかし、右の本文比較結果から、春日版が思溪版に依ったとは考えられない。

右の①は、思溪版が「光」の一字を加えたため、春日版と一致した例である。思溪版のこの行は、一行十八字である。

同様に、②は、思溪版が「從座起」の三字を製板後に加えたため、春日版と一致する。思溪版の当該行は、一行二十字となっている。

この①②は、思溪版が日本古写經系本文を取り込んで本文を修正したために春日版本文と一致した例である、と解釈できる。

そうであれば、春日版『梵網經』本文の全体が、宋版ではなく、日本古写經と同系の本文に基づいたことも考えられる。この見通しのもと、『梵網經』日本および隋唐古写經数本を調査したものの、春日版と完全に一致するものはいまだ見出せない。今後の課題としたい。

7. 『仁王般若波羅蜜經』

『仁王般若波羅蜜經』も、卷上について、春日版と宋版諸本とを対照する。

所在 春日版	東禪寺版・開元寺版	思溪版
0825a11: 四諦十二緣	四緣十二緣	(同)
0825a20: 始生功德住生功德終生功德 三十生功德	始生功德	(同)
0825a22: 十一初入	十一初入	(同)
①0825a25: 三梵	三	(同)
0825a26: 諸天子 (高麗版も同じ)	諸天子	諸天子
0825b03: 有無量化佛 (高麗版も同じ)	復有無量化佛	復有無量化佛

0825c12等：仁王護國般若波羅蜜經	仁王般若波羅蜜經	仁王般若波羅蜜經
②0826a08：十二入空	十二入	十二入
③0826b16：十力十八不共法	十力十八不共	(同)
0826b24：寂滅忍上中下	寂滅忍上中下	寂滅忍上中下
0826b25：名爲一	名爲	名爲
④0826c01：種性有十種心	種性有十心	種性有十心
⑤0826c15：善覺地至	善地至	善地至
0827b25：住生德行名爲地	住生功德名爲地	(同)
0827c06：化樂天王百億國	(同)	自在天王百億國
0827c08：法現開士自在王	(同)	法現開士化樂王
0827c10：能洗三界迷心惑	能洗三界迷心惑	能洗三界迷心惑
0827c15：觀第三諦無二照	觀第三諦無二照	(同)
0827c18：圓照三世恒劫事	圓照三世恒劫事	(同)
0827c22：灌頂菩薩四禪王	灌頂菩薩五地王	(同)
0828a02：登金剛原居淨土	登金剛原居淨土	登金剛原居淨土
0828a05：口常說法非無義	常口說法非無義	(同)
⑨0828a14：一切無量果報	一切無量報	一切無量報
⑦0828a24：非相非無相無來无去	非無相無來去	非無相無來去
⑧0828a29：無六道	六道	六道
⑥0828b07：諸佛菩薩	諸菩薩	諸菩薩
0828b18：諸忍法門	此忍法門	(同)
⑩0828b23：有十億	十億	十億
⑪0828c05：色心是	色心	色心
⑫0828c08：舌所得爲味	舌得爲味	舌得爲味
0828c20：是故諸佛	是故佛	是故佛
⑬0829a02：不可思議	不可説	不可説
0829a04：波斯匿王自言第義諦	波斯匿王言第一義諦	波斯匿王言第一義諦
0829b20：非爲非文字	非非文字	(同)
0829b20：修爲修文字者	修爲修文字者	修爲修文字者

右の通りであり、宋版一切經に依拠した本文とは言えない。^⑩
春日版は、宋版諸本の中では、やはり、思溪版に近い。①③は、春日版・思溪版がともに日本古写経系本文に依る修正を加えたために一致した例かと

思われる。春日版・思溪版は、①③の一行を十八字で彫り、東禪寺版・開元寺版は十七字である。
しかし、②④⑤⑥⑧⑨⑩⑪⑫の春日版は一行を十八字、⑦⑬は一行十九字で彫り、思溪版は、東禪寺版・開元寺版と同じ、行十七字である。よって、春日版のみ、日本古写経系本文に従って、板を修正したものと考えられる。
なお、書陵部蔵開元寺版は、異本校合により、④「種」・⑤「覺」・⑥「果」を墨書補入している。これによって、春日版と同じ本文を持つ経本が存したことが確認される。

8. 『仏垂般涅槃略説教誡經』

本経も、同様に本文対照した結果を記す。

所在	春日版	東禪寺・開元寺版	思溪版
1111a07：功德之所住處	功德住處	(同)	(同)
1111a12：如被賊害	如被劫害	如被劫害	如被劫害
1111a17：譬如有人手執蜜器			
1111a25：無得多求	無得少求	(同)	(同)
1111a28：亦無有廢	亦勿有廢	亦勿有廢	亦勿有廢
1111b22：者持應器	執持應器	執持應器	執持應器
1111c11：欲求寂靜	若求寂靜	(同)	(同)
①1111c21：無如不念	如不念	(同)	(同)
1111c29：行者亦爾	行者	(同)	(同)
1111c29：故善修禪定	故善治禪定	(同)	(同)
1112a08：雖是肉眼	雖無慧眼	(同)	(同)
1112a15：所説利益	所欲利益	(同)	(同)
1112a18：知病説藥	如病説藥	(同)	(同)
1112a19：示人善導	導人善導	(同)	導人善導
1112b13：勿懷憂惱	勿懷憂也	(同)	(同)

右のとおり、本経も、①で行十八字として「無」を補入するなど、春日版は思溪版にちかい。だが、完全には一致しない。^⑪
しかし、春日版は、尾題下に千字文「羊」を彫る。これは、思溪版等『開元釋經録』の当該經千字文に一致する。思溪版を基として版下下書きを作り、それを、いずれかの本文によって修訂したものであろうか。^⑫

9. 『菩薩瓔珞本業經』

本經の卷上について、諸本の本文異同を記す。

所在	春日版	東禪寺・開元寺版	思溪版
①	1010b07: 重遊於汧沙王國	重遊於汧沙王國	(同)
1010c24: 無量大寶藏海		無量大寶藏	(同)
1011a20: 不得其邊		不得其過	(同)
②	1011b14: 度羅諦流沙	羅諦流沙	羅諦流沙
③	1011c03: 十心順名字	十順名字	十順名字
④	1012a17: 二十四願	(同)	二十四願
1012b07: 又罪八萬四千		受罪八萬四千	(同)
1012b17: 及心所行法		及心所得法	(同)
⑤	1012c18: 真如相菩薩	如相菩薩	(同)
1013a04: 超度三魔		(同)・超度三覺	(同)
⑥	1013c28: 過去二無明諸行	過去二無明行	(同)
⑦	1014a15: 一諦二諦	一・二諦	(同)
1014a20: 天眼見		天明見	(同)
⑧	1014b24: 一乘因法	一乘因法	(同)
⑨	1014b29: 若一劫二劫	若一劫	(同)
⑩	1015c13: 一切定佛因果	一切佛因果	(同)
⑪	1015c14: 一切佛菩薩	一切菩薩	(同)
1015c14: 一念一時		一念一照	(同)
⑫	1016c22: 中有一種業	中有一種業	中有一種業

右のとおり、本經は、思溪版と比較的よく一致する（⑫は、春日版の誤刻であろう）。

①⑤～⑪では、春日版・思溪版は同字を補入し、当該行を十八字とするため、両者本文は等しい。東禪寺版・開元寺版は、一行十七字である。

②③は、春日版のみ一字補入し、一行十八字としている。東禪寺版・開元寺版・思溪版は、他行同様、十七字である。

④の例では、増上寺藏思溪版は、上欄に「二イ」と異本本文を墨書注記している。高麗版も、東禪寺・開元寺版に同じく、「二十四願」である。よって、「二」は、思溪版の誤刻であると考えられる。

卷下は、次の様になる。

所在	春日版	東禪寺・開元寺版	思溪版
1017a11: 未議三寶聖人		未議三寶聖人	未議三寶聖人
①	1017b05: 清淨鮮白故	清淨白故	(同)
②	1017b10: 從發住心不生倒	從發心不生倒	(同)
1017b18: 於實得法忍心		法實得法忍心	(同)
1017c21: 佛言		佛子	(同)
③	1018a07: 大喜觀喜前人受樂大捨觀	喜觀喜前人受樂捨觀	(同)
④	1018a17: 一入一出	一入一出	一入一出
1018a25: 坐千寶蓮華相		坐千寶相蓮華	坐千寶相蓮華
1018b01: 登大山空		登大山臺	登大山臺
⑤	1018c09: 爲漸漸覺云何	爲漸漸云何	(同)
⑥	1018c24: 何以故而共一心	何以故而共一心	(同)
1019a15: 苦苦惡因果		苦惡因果	(同)
1019a21: 鏡爲日月歲數		珠爲日月歲數	(同)
1019b05: 一心有百心故		一心有百心破	(同)
⑦	1019b07: 如是增進	如增進	(同)
1020a04: 三正遍知		(同)・三正徧知	(同)
⑧	1020a15: 出煩惱道	出要煩惱道	(同)
1020a28: 不解是三句者		有解是三句者	有解是三句者
1020b19: 應受觀學		應受學觀	(同)
⑨	1020b24: 若信女中	信女中	(同)
⑩	1020c22: 復敬受四不壞信	復敬受四不壞信	(同)
1020c22: 依法四依法		依止四依法	依止四依法
1021b19: 有未得使悔		有犯得使悔	有犯得使悔
⑪	1021c18等: 非今心	非今	(同)
1022a04等: 善惑二心		善或二心	(同)
⑫	1022a05: 起色界	起色	(同)
1022b01: 若一若二無別		若一無二無別	(同)
1022b21: 第一弟子		(同)・第一弟子	(同)
1022c17: 其聽法者		有聽法者	(同)
1023a02: 百千萬佛轉授		百千萬佛傳授	(同)

右のとおり、卷下においても、本經は思溪版と比較的よく一致する。

①②⑤⑦⑨⑪⑫で、春日版・思溪版は同字を補入し、当該行を十八字とする。東禪寺版・開元寺版に補入は無く、一行十七字である。

しかし、③は、春日版のみ二字を補入し、一行十九字とする。④も、春日版のみ一行十八字である。⑥⑧でも、春日版だけが一行十六字とする。これら本経巻上・下の実態から、本経では、春日版は思溪版に基づき製版の後、古写経系本文を参照し、補訂している、と考えられる。思溪版における補訂作業不十分な箇所、あるいは、思溪版の本文を採用しなかった箇所が、春日版との異同として右に挙がったものと思われる。下巻⑩は、「佛子復敬」の「敬」を思溪版が欠筆していながら、春日版では欠筆としない例である。

五、結び ―春日版『五部大乘経』の底本―

本稿の目的は、鎌倉後期に開版された春日版「五部大乘経」の底本を、経本文の比較によって特定することであった。

本文比較の結果、春日版「五部大乘経」のうち、『大般涅槃経』は東禪寺版補刻本、『大般涅槃経後分』『大方広仏華嚴経』『大方等大集経（日藏経・月藏経を含む）』『摩訶般若波羅蜜経』は思溪版に基づくことが確実になった。⁽¹³⁾

ただし、同時に、宋版の底本文に基づく製版後、春日版は、日本古写経系本文による改訂を加えていることも知られた。

また、春日版『梵網経』『仁王般若波羅蜜経』『仏垂般涅槃略説教誡経』『菩薩瓔珞本業経』は、東禪寺版・開元寺版よりは思溪版に近いものの、宋版一切経に依拠したものではない、と考えられた。これらは、春日版に宋版刻記が見られない諸経であった（前稿）。それが偶然ではなかったことが、本稿の検討によって確認された。これら以外に、伝統的な春日版風の書体で彫られた『妙法蓮華経』『無量義経』『観普賢経』、および疑経『像法決疑経』も、春日版は宋版一切経を底本としていない。

鎌倉後期刊刻春日版「五部大乘経」は、新来の宋版一切経を取り込んだ。しかし、それは、全面的・無批判な宋版撰取ではない。宋版本文に依拠する経を選択し、古来の経本文をも採用して、印本を作成している。

宋版に依らない経本の底本は何か、宋版思溪版の修訂に使用した経はいずれのものかをつきとめることが、本稿の発展的課題として生じている。

【注】

(1) 春日版「五部大乘経」は、日本各地に伝存する。佐々木勇「鎌倉時代における「五部大乘経」構成経の転換に見られる宋版一切経の影響」(『鎌倉遺文研究』第38号、二〇一六年十月)、参照。

(2) 思溪版『大般涅槃経』は一行十八字が基本であるため、一行十七字の春日版・東禪寺版とは、全体に亘り、改行箇所が異なる。改行箇所のみは相違および明らかな誤刻は、掲出を省略する。また、思溪版との以下の字体異同も、省略した。「春日版」脇―「思溪版」脅、烟―煙、炎―燄、修―脩、尔―爾、礼―禮、逃―逃、匏―瓢、逃―逃、坐―座、悟―寤、驅―駈、旃―旃、嘿―默、堤―隄、并―併、奸―姦、怪―恠、真―眞。

春日版と本文を比較する他の諸本についても、右と同様に扱う。

(3) 本経では、春日版・思溪版は一行十八字または十九字、東禪寺版・開元寺版は行十七字であるため、春日版と東禪寺版・開元寺版との改行位置は、大部分異なる。

(4) なお、『大般涅槃経後分』を東禪寺版・開元寺版は126賓に入れ、思溪版は125率に入れる、という相違もある。春日版は、千字文号を梵字に変更しているため、どちらであるか分からない。

(5) たとえば、春日版『大方広仏華嚴経』巻第二「040404:恭敬」では、春日版は思溪版「敬」の欠筆を欠筆のまま彫っている。東禪寺版・開元寺版は、同一箇所を欠筆にしない。なお、この対照作業により、春日版は、思溪版に依拠しつつ、日本古写経系本文を取り込んでいることが知られた。この点は、佐々木勇「春日版「五部大乘経」本文と底本選択理由」(『国際仏教学大学院大学附置日本古写経研究所編「日本古写経研究所研究紀要」第2号、二〇一七年三月刊行予定)を御覧頂きたい。

(6) 詳細は、右注佐々木論文を御覧頂きたい。

(7) 例えば、前稿の検討で思溪版を底本とする刻記が見られなかった巻第十二では、春日版「0299C17:佛十右」が、東禪寺版・開元寺版・思溪版いずれも「佛十力」となっており、「右」は春日版の誤刻であると判断される以外は、春日版本文は、すべて思溪版に一致する。春日版本文が東禪寺版・開元寺版と異なるのは、十一箇所であった。

(8) 注(5) 佐々木論文、参照。

- (9) 春日版『梵網經』は、大正蔵が底本とする高麗再雕版と一致する場合が多いものの、これも春日版『梵網經』と完全に一致するものではない。
- (10) 東禪寺版・開元寺版『仁王般若波羅蜜經』所収の第72翔函には音釈帖があり、『仁王般若波羅蜜經』卷上・下の音釈も刻され、思溪版『仁王般若波羅蜜經』にも卷末音釈が存する。しかし、春日版には、卷上・下ともに音釈は無い。
- (11) 元版（普寧寺版）をも比較してみた。しかし、結果は同様であった。
- (12) 修訂のための本文として、日本伝来古写経が考えられる。しかし、七寺本・金剛寺本等に一致する箇所も存するものの、別の異同も多い。なお、書陵部蔵宋版一切經『仏垂般涅槃略説教誡經』（開元寺版）には「1111a12:

如被劫害」上欄に「賊」が墨書され、「1111a17: 譬如有人手執蜜器」が本文右に補入されている。「1112a19: 示人善導」も、「導」の右傍に「示イ」の書き込みが有る。よって、春日版のごとき本文が、別に存したことは間違いない。

(13) なお、東禪寺版・開元寺版・思溪版とも、一面六行である。帖装の折りしろとして、六行ごとに、若干の空間を空けて彫っている。しかし、東禪寺版・開元寺版は、巻首に題記が有るのが基本であり、六行ごとの纏まりが題記の無い思溪版とは異なる。春日版にも題記が無いため、春日版の六行の纏まりは、東禪寺版・開元寺版には合わず、思溪版と一致する。

The South Song Dynasty Edition of the Buddhist Canon (宋版一切経)
Which Became Original Text of Kasuga Prints (春日版)
the Five Volumes of Mahayana Sutras (五部大乘経) (2)
— It depends on comparison of the sutra book sentence —

Isamu Sasaki

Abstract : The Five Volumes of Mahayana Sutras (Hoke-kyo (法華経), Kegon-kyo (華嚴経), Nehan-kyo (涅槃経), Daijik-kyo (大集経), Daibon hannya-kyo (大品般若経)) were printed at Kofuku-ji (興福寺) in Nara. Those were called Kasuga prints (春日版). Those were printed in the latter period in Kamakura era. The purpose of this thesis is to specify a dependence book of the Five Volumes of Mahayana Sutras.

The next things were found by this thesis.

1. A dependence book of Nehan-kyo (涅槃経) is Touzenji-ban hokokubon (東禅寺版補刻本).
2. Dependence books of Kegon-kyo (華嚴経), Daijik-kyo (大集経) and Daibon hannya-kyo (大品般若経) are Sikei-ban (思溪版).

However, I also found out that Kasuga edition has revised the text by old copied sutras in Japan.

Key words: the South Song Dynasty Edition of the Buddhist Canon, the text of Kasuga prints,
the Five Volumes of Mahayana Sutras, the old copied sutras in Japan

キーワード : 宋版一切経, 春日版, 五部大乘経, 日本古写経